

下水道 お水が笑顔になれる道

わたしたちが生活する上で、

水は欠かせないもの。

しかし、その水を使うだけ使っただけでいいのでしょうか。

わたしたちが汚してしまった水は、わたしたちがきれいにしなければ、だれがしてくれるのでしょうか。

■生活排水の現状

海や川の汚染原因のほとんどは、家庭から出る生活排水だといわれています。

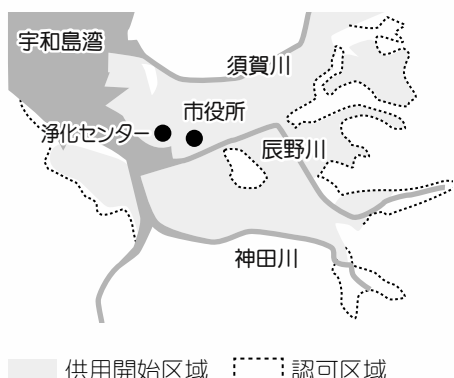
公共下水道は、海や川の水質を改善していくことが最も重要な目的として整備されており、公共下水道に接続している家庭や事業所は、すべての生活排水を浄化センターできれいに処理してから宇和島湾に放流しています。

しかし、接続していない家庭や事業所から出る生活排水のほとんど（合併処理浄化槽を除く）は、何も処理されなままの状態で海や川に放流されてしまいます。言い換えると、台所で洗剤を使って洗っているという事は、実は直接海や川で洗剤を使って洗っていることと変わりがないのです。

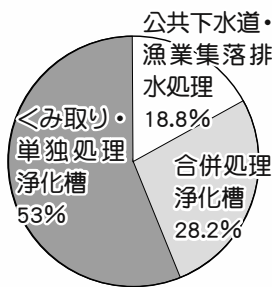
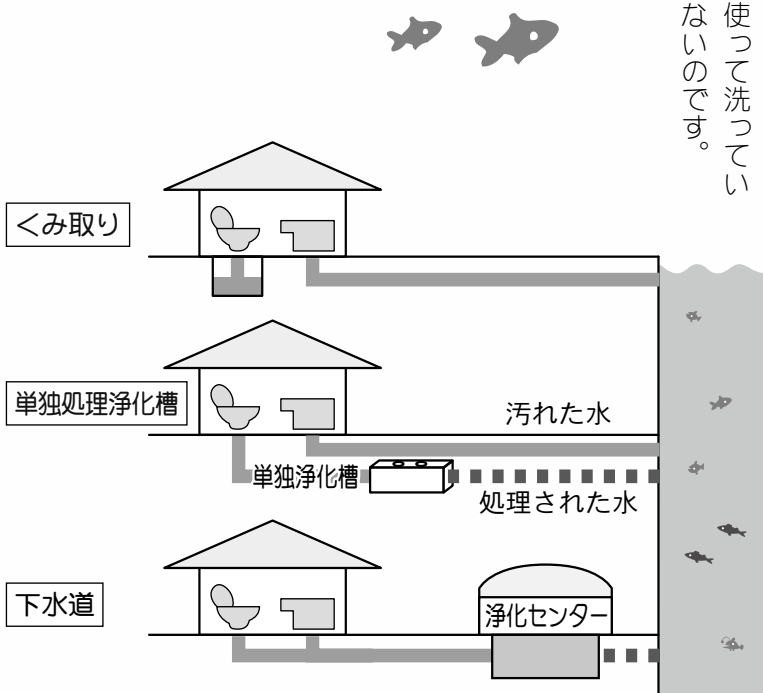
公共下水道は、平成9年度末から利用できるようになって今年で16年目になります。

国からの認可を受けた区域（おおよそ須賀川と神田川に挟まれた区域）の約9割（平成25年3月末）の整備が終わり、その区域の中で約8割の世帯が実際に下水道を利用しています。

この区域以外では、各家庭で取り付けている小さな浄化センターの役割を果たす合併処理浄化槽が利用できます。



- 認可区域 : 4.26km² (約1万9,000人)
- 整備済み : 3.59km² (約1万8,000人)
- 下水道接続 : 約14,800人
- 未接続 : 約3,200人



宇和島市の下水処理別の割合

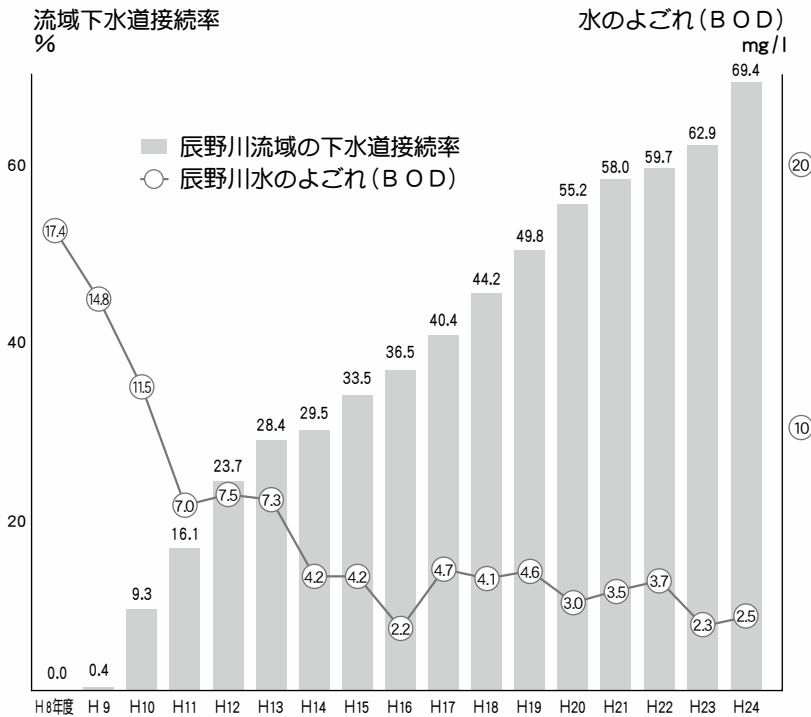


スイスイくん

■下水の効果を検証

整備した区域の中心を流れる辰野川の水質と下水道の接続率の関係をみると、供用開始した平成9年度末から下水道利用者が年々増加するのにつながって、BOD値が減少しています。これは、辰野川の水質がきれいになってきていることを表しています。

BOD(生物化学的酸素要求量)とは、水の中の有機物を微生物が



※流域下水道接続率は、辰野川流域で下水道を実際に使っている人口を流域全体の人口で割った割合。

ということになります。

分解するために使う酸素の量のこと、有機物による水の汚れを示す代表的な指標です。
BOD値が高いということは…
微生物によってたくさん酸素を消費
有機物がたくさん含まれている
汚れた水

きれいな水にすむ生き物からきたない水にすむ生き物まで

	BOD	すんでいる生き物
きれいな水 (泳ぎたくなるような水)	約2.5mg/l以下	イワナ、ヤマメ、ニジマス、サワガニ など
ややきれいな水 (水遊びができる水)	約2.5～5mg/l	アユ、ゲンジボタル など
きたない水 (にごっている水)	約5～10mg/l	ドジョウ、タニシ、ミズカマキリ など
大変きたない水 (さわりたいくない水)	約10mg/l以上	コイ、フナ など

下水道に接続していない人は、1日でも早く宅内工事をして宇和島の自然を守っていきましょう。
下乳1本分(200ミリリットル)を魚がすめる水質にするためには、お風呂(200リットル)約16杯分の水が必要です。水をきれいにすることは、たくさん費用や労力が費やされます。

子どもたちも学習しています



夏休み親子下水道教室

8月9日、浄化センター(弁天町2)で夏休み親子下水道教室が開かれました。

36人の参加者は、下水道の仕組みや役割についての講義、微生物の観察、施設見学などを通じて、水をきれいにする大変さや大切さを学びました。



【問合せ】都市整備課

☎ 24-11111 内線2638